静岡ユースサッカー
THE YOUTH SOCCER

11月1日金曜日
昭和49年（1974年）

昭和49年5月1日第三種郵便物認可

発行所
静岡県清水市サッカー協会
発行人　協会理事長堀田哲爾
編集人　サッカーニュース社
二本木一夫
清水市辻町5丁目1の31
電話(0543)67-1970清水ゴール
編集専用電話66-5282(代)

毎月1回1日発行　1部20円

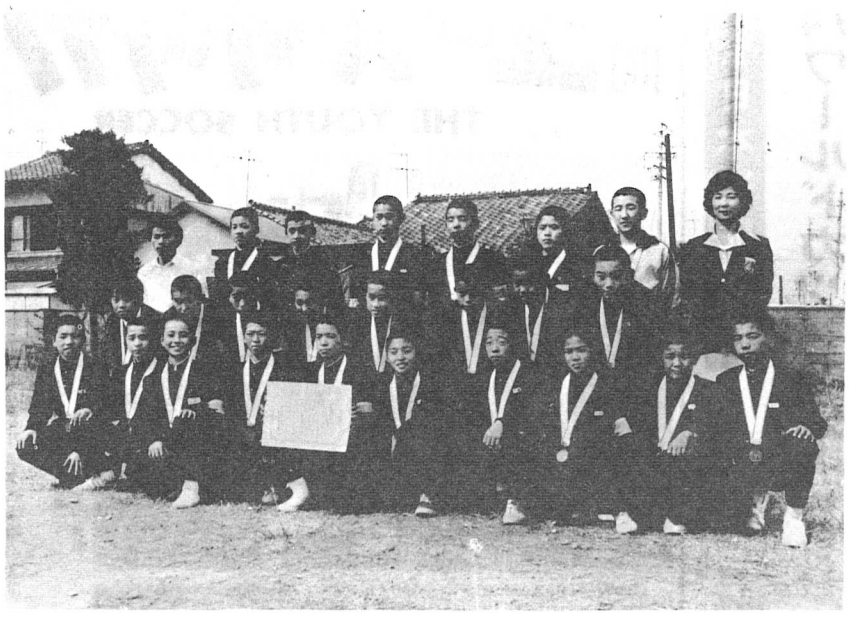
PEPSI

清水少年少女サッカーリーグ
西部優勝の有度二が王座決定戦も勝つ！

▽▽▽

小学生初の優秀選手章
全清水、市民大会で表彰

▼▼▼▲▲▲ 第四十二回清水市市民体育大会は十月十日体育の日、市営体育館で開会式が行われたがここで四十八年度全清水少年団チームが、市体育協会より表彰を受けた。



写真は市民大会で表彰された48年度の全清水少年団チーム

少年サッカーとチームプレー
『必要は発明の母』

第二次世界大戦でアメリカに日本生糸が入らなくなり、アメリカ女性が困り、その結果作りだされたものがナイロンストッキングである、という話は有名である。

すなわち人間は必要に応じて物を作りだし工夫する力を持っているのである。

サッカー指導の中でも、子ども自身のその必要性を解らせることが大切であり、現在の教育に最も欠けているのがその点ではなかろうか。

理科におけるブザーづくりも、モーターづくりも、セットされたものを組みたてるだけ。たしかに全員一応動き回転するであろうが、苦労してつくった喜びがないからどんなふうにしてまわるのか、すぐ忘れてしまい知識としても残らない。

プリキとエナメル線とくぎをあたえ、苦労してつくる電信機は型は悪いが動きだした時に本当の感激があり、決して忘れないであろう。

セットされたものには考える必要がないのであり、プリキの電信機は考えなければならない必要性があるわけである。

サッカー指導の中にもこの基本的な考えが大切ではなかろうか。

サッカーマガジンの十一月号に秋庭氏のフットボール断想の中に『中学生サッカーは技か力か』の文章がありたのしく読ましてもらった私だが、関東のコーチャーズアソシエイション定例会でも問題になった。

古河のサッカーや、浜名のサッカーの様な力を中心としたサッカーの将来についての話題であるが、私は決して力で押すサッカーも悪くはないと思う。

しかしそれが指導者の意図で行われているところに問題があるのではないだろうか？

選手自身がはたして本当にキックアンドラッシュを必要としているだろうか。やっているのではなく、やらされているサッカーの感じが強い。

選手自体が考え、工夫してつくらなければ特に技術を修得せざるを得ないような指導法これこそイマジネーションの育つ指導法ではないだろうか。

どんなトレーニングでも、プレーするのは選手であることをあらためて忘れてはならないし、苦労することは体力的な面だけでなく発見や工夫をさせることであることを忘れてはならないと思う。（哲）

第42回市民大会
歴史的に育った清水市のサッカー

地区別社会人大会も十三チームが参加し、市民体育の立場からそろそろ総合対抗試合にしても良い時期にきている。

来年、四十三回大会は小・中・高・社会人ともに得点制にして、地区対抗形式を考えるべきであろう。

なお今までの清水サッカーの生い立ちを記し、市民大会の総評としたい。

押見監督以下二十七名で芝野会長より全員の首に銀メダルを贈られた。
ヘダコット氏の講習会
四会場で二百名が受講

ドイツナショナルコーチ、カールヘインツ・ヘダコット氏は来日以来、広島、豊田、東京宇都宮とわずか三週間の間に四会場で全日本コーチャーズアソシエイションの講習会を開催、のべ二百名の受講生を数えた。

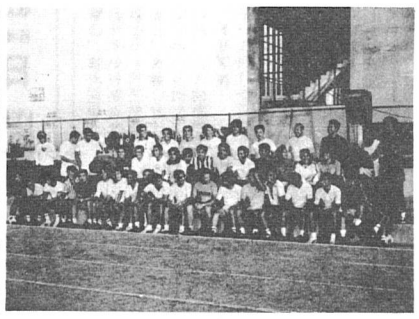
豊田会場へも、日産の加茂氏、豊田西垣氏京都の藤田氏等が参加特にやらされるサッカーからやるサッカー、と技術の向上の刺激になったことが表彰の理由。

久しぶりに集まった二十七名のうち各中学でサッカーをやっていないのは大勝、鈴木、朝内の三名で、他は全員サッカー焼けした顔で喜びの声を発していた。

押見氏も「これからが大変です。私がいただいたのではなく、清水のサッカーに贈られたもので、私だけがよい機会にめぐまれてしまい一生懸命やっておられる人たちに申しわけない」と、表彰されてもなおチームメートのことを考えていた。

全日本少年大会の活躍、そして韓国での大活躍は市民に体育向上

選手自身がプレーするサッカーを強調した講習会であった。



PEPSI

清水市サッカー小歴史……20年のあゆみ

昭和31年	清水クラブ　全国都市対抗３位
昭和32年	日軽清水　全国実業団大会３位
昭和33年	清水東高校　国体優勝
昭和36年	県教員芙蓉クラブ　国体優勝　萩野純二監督　清水より堀田，望月，福本が出場
昭和39年	五中　県大会優勝　望月啓治監督
昭和41年	庵原中　県大会優勝　望月啓治監督
昭和42年	小学生リーグ発足　社会人リーグ発足
昭和44年	一中　県大会優勝　決勝は清水同志対庵原中　一中　東海四県優勝　小林芳夫監督
昭和44年	清水商高　全国インターハイ準優勝　苫米地康文監督　素人リーグ発足
昭和44年	小学校女子リーグ発足
昭和45年	清水東高卒　高田　全日本入り
昭和45年	小学校４年生以下によるジュニアーリーグ発足
昭和46年	少年団ジュニアー　西日本大会優勝
昭和46年	ナイター施設完成　ナイターリーグ発足
昭和46年	清水商高　全国高校選手権第４位
昭和46年	国体教員高校総合で優勝　清水市より７名参加
昭和46年	市民大会で堀田氏最優秀選手で表彰　加藤　青木　勝沢　鍵本も表彰
昭和47年	第１回全国サマーフュスティバル開催
昭和47年	全日本ジュニアー大会開催　入江県大会２連勝　堀田哲爾監督
昭和47年	清水東高　インターハイ優勝　勝沢要監督
昭和47年	ユースサッカーの発刊
昭和48年	ジュニアーチーム　関西読売大会優勝
昭和48年	全清水　全日本第２位　関西大会優勝
昭和48年	清水東高　インターハイ第３位
昭和48年	飯田ファイターズ　スポーツ祭優勝　押見美知枝監督
昭和48年	日軽　全日本リーグ２部にて活躍したが東海リーグに落ちる
昭和49年	全清水６年　韓国遠征５勝３分の好成績　押見美知枝監督
昭和49年	チャイルドサッカー教室開催
昭和49年	市制50周年記念招待サッカー試合の開催　藤和５－２全清水
昭和49年	第１回高校選抜大会開催　全国24チーム参加　浦和南の優勝
昭和49年	清水三中　県大会優勝　浄見元紹監督
昭和49年	伊藤　全日本ジュニアー入り
昭和49年	静岡芙蓉（中東部登録）２年連続14回目の国体出場　代表堀田哲爾氏
昭和49年	清水クラブ新発足　天皇杯ブロック出場　会長稲名嘉男氏
昭和49年	全清水48　市民大会にて特別表彰される

第7回静岡県サッカースポーツ少年団大会要項

《主旨》　県内サッカースポーツ少年団員がサッカースポーツ活動を通じて親睦をはかるとともにサッサー競技の普及と向上をねらい，あわせてたくましい少年の育成を目的とする。

1．期　　日　昭和50年２月２日（日）２月11日（祭）
2．主　　催　静岡県蹴球協会，静岡県スポーツ少年団本部
3．主　　管　静岡県サッカー少年団育成協議会
　開催地　榛原町
4．後　　援　ペプシコーラ
　静岡新聞社　静岡放送
5．参加資格　静岡県蹴球協会，静岡県スポーツ少年団本部に登録されている単位少年団で，（選抜をふくむ）静岡県サッカー少年団育成協議会支部主催の地区予選を経たチームとする。
6．チーム編成　代表者１名　監督１名　選手15名　計17名
7．中央大会参加チーム数
　10～12才（小学生）16チーム，13～15才（中学生）16チームとし
　原則的に地元チームを加える。又不参加の支部があった場合開催地区チームを補充する。決勝戦に女子２チームを招待する。
8．試合方法　トーナメント方式で行い，細則はサッカー少年団育成協議会にて決定するが，三位決定戦は行わない。
9．使用球　公認少年皮ばり４号使用（タチカラ），同中学生はぬいボール５号とする。
10．参加料　予選，出場から中央大会をふくめて 2,000円とする。
　但し未登録チームの出場費は10,000円とする。
11．参加章　中央大会出場者全員に参加章をあたえ，参加チームは参加記念証をペプシコーラより授与する。
12．表　　彰　優勝チームには賞状並びに優勝旗（持回り），優勝カップ（ペプシ杯），優勝者には記念メダルを授与する。準優勝，三位チームも表彰する。
13．申し込み　○予選参加希望チームは所定の申し込み用紙にメンバーを記入した上，各支部の責任者に11月25日までに提出。
　○最終中央大会参加申し込みは　各支部責任者が１月10日までに本部にチームの写真，メンバー表共に提出，当日までに申込みのないものは不参加として補充の作業に入る。
14．予選申込み及び予選会運営責任者

本部　静岡県清水市七ッ新屋 291　堀田　哲爾
ＴＥＬ自宅〈0543〉45－1863
勤務先〈0543〉53－3341

ユースのための
サッカーコーチ

足の裏でボールを扱えるように
足の裏でボールをついてみよう。片足でついたり、リズムよく両足でついたりしてみよう。

足の裏でボールを止めてみよう
足をけりあげたり、足の裏を見せないで、ボールをピタリと止めるように。

足の裏を使い1対1に強くなろう
特に足の裏でボールをうごかしたり、ボールを中心に体を前後左右に移動する工夫をしよう。

昭和30年以降年次成績

	スポーツ少年団6年の部	スポーツ少年団5年の部	スポーツ少年団女子の部	ジュニアの部4年以下	中学の部	高校の部	一般の部
第23回（昭30年）	江尻７－０中田					一般の部に含む	日軽３－０商船
第24回（昭31年）	江尻２－０一中Ｂ				袖師３－０蒲原	〃	日軽１－０東燃
第25回（昭32年）	江尻13－０中田				袖師３－１三中	〃	日軽３－１清水東
第26回（昭33年）	江尻７－０中田小				蒲原３－１袖師	〃	清水東５－０鋼管
第27回（昭34年）	江尻４－０中田				蒲原５－３袖師・延長	〃	日軽６－１清水東
第28回（昭35年）	江尻Ａ６－０江尻Ｂ				蒲原袖師双方１位	〃	清商ク３－１鋼管
第29回（昭36年）	江尻Ａ２－２三保Ｂ				蒲原０－０一中Ａ	〃	日軽清水３－１日軽化工
第30回（昭37年）	三保ＡＢ双方１位				五中Ａ２－０袖師	東海１－０清商	日軽清水２－１日軽化工
第31回（昭38年）	庵原３－０江尻				五中３－１庵原	東高３－０清工	日軽３－１ポーラ
第32回（昭39年）	庵原３－０江尻				五中３－０五中	東高３－０南高	日軽３－１清水東ＯＢ
第33回（昭40年）	庵原７－０江尻		江尻Ａ２－０江尻Ｂ		庵原２－０五中	東高２－０清工	日軽５－０ポーラ
第34回（昭41年）	庵原２－０江尻		庵原１－０江尻		庵原袖師双方１位	静工２－０南高	五中ＯＢ４－０日軽化工
第35回（昭42年）	Ａリーグ庵原５－０不二見　Ｂリーグ庵原Ｂ１－０入江Ｂ		入江３－０江尻		庵原０－０一中　双方１位	東高１－１清商	日軽Ａ２－２研究所　双方１位
第36回（昭43年）	庵原５－０和田島		入江４－０江尻		一中３－０庵原		袖師２－１三保
第37回（昭44年）	入江２－０和田島		高部３－０興津		庵原３－０一中	清商２－０南高	袖師３－１三保
第38回（昭45年）	入江４－０小島	入江５－０不二見	興津１－１入江	入江６－０江尻	庵原１－１八中	東高１－０南高	袖師２－１飯田
第39回（昭46年）	入江５－０西河内	有二２－０江尻	興津２－１高部	辻１－１庵原	八中３－０一中	東高２－１清商	西久保１－０三保
第40回（昭47年）	江尻１－０入江	辻２－０飯田ＦＡ	興津１－０中河内	辻２－０和田島	八中２－０四中	清商１－０南高	岡３－１有度
第41回（昭48年）	辻　－有二	辻　－有二	飯田２－０庵原	辻２－１不二見	八中１－０庵原	東理数４－０清工同好	飯田２－０辻
第42回（昭49年）	有二１－０辻	入江２－０辻	中河内２－０興津	辻１－０有一	一中３－２両河内	高校選抜12－１大学	有度１－１庵原　ＰＫ
第43回（昭50年）							
第44回（昭51年）							